

## 栄養学教育における情報教育ガイドライン

(私立大学情報教育協会 2010 年度)

### ■到達目標 1

I C Tを利用して、栄養・食生活と健康・疾病に関する情報を収集・蓄積・分析に活用できる。

- ①栄養・食生活と健康・疾病に関する情報の所在、構成、背景を知っている。
- ②インターネットを用いて栄養・食生活と健康・疾病に関する適正な情報を検索し、選別できる。
- ③選別した情報をデータ化して、統計・解析ができる。
- ④多様な I C Tを用いて、情報倫理に配慮した効果的なプレゼンテーションができる。

### 【教育内容・教育方法】

- ①と②は、情報検索を実施し、関連するW e b サイトに接続させ、情報の収集および蓄積方法の演習を行う。
- ③は、問題解決のための情報を、表計算ソフトなどを用いてデータ化したものを統計処理し、その結果の妥当性を評価・判定する演習を行う。
- ④は、プレゼンテーションツールを用いて、引用や剽窃などに留意して、実習を行う。

### ■到達目標 2

栄養マネジメントに必要な専門的な情報活用ができる。

- ①アセスメントに必要な基本情報を知っている。
- ②基本情報をデータ化できる。
- ③汎用アプリケーションソフトを用いて解析・評価できる。
- ④栄養アプリケーションソフトを用いて、ケアプランを作成できる。
- ⑤対象特性別アセスメント・ケアプラン情報を発信できる。
- ⑥結果のモニタリング、評価、フィードバックに I C Tを活用することができる。

### 【教育内容・教育方法】

- ①～③は、栄養データを用いて、汎用アプリケーションソフトを活用できる技術を修得する演習を行う。
- ④は、栄養アプリケーションソフトを用いて、各種事例に対するケアプラン作成を体験させる。
- ⑤と⑥は、栄養マネジメント(栄養アセスメント、ケアプラン、モニタリング、評価、フィードバック等)に関する問題解決型学習法を用いた演習を行う。

### ■到達目標 3

I C Tを活用して、地球レベルでの「食」をテーマとした交流を行うことができる。

- ①日本および世界の食文化等について適正な情報を収集・加工・発信することができる。
- ②海外研修や国際会議等に参加し、インターネットなどを通じて継続的な情報交換ができる姿勢を身につける。

### 【教育内容・教育方法】

- ①は、インターネット(メール・ブログ・掲示板・ホームページ等)による情報交換に必要な技術や食文化等のデジタル情報を作成する演習を行う。
- ②は、食文化等の交流に関するプレゼンテーションを行い成果を評価するための体験学習を行う。